

新ひだか町とともに 20 年、撮り続けて気づく世代を超えた

つながり



あの時の子どもたちが
今度は親になって

新ひだか町 20 周年特別連載～私と新ひだか町の 20 年～
第 1 話「写真から生まれる会話とつながり」

—— 写真日記・奥野達也さん

お店に来てくれる
ここはそういう町

新ひだか町が誕生した 2006 年、デジタル化の波が押し寄せ写真業界全体が試行錯誤している中、静内に『写真日記』をオープンした奥野さん。写真が家族や地域のつながりのきっかけになってほしいとの思いで 20 年間たくさんの人の成長や人生の節目を写真に収めてきました。

時とともに記憶が曖昧になってしまいう小さい頃の思い出も、写真があれば思い出せるし、それをきっかけに家族の中で他愛もない会話が生まれる。それがすごく大事なことだと思います。

新規顧客を求める商売が多い都会に比べ、家族代々来てくれるお客さんが多いのがこの町の良いところ。新しいお客さんだと思っていた人も、実は誰かとつながっているということも珍しくないと奥野さんは話します。

昔は、生まれてから成人するまでの写真を撮ったらお客さんとしてのその子はこの店から卒業だと思っていて、その子が親になって今度は自分の子どもを連れてくるなんて想像していませんでした。
うちで撮った写真がその人たちの人生を少しでも良い方向に向かわせるきっかけになってくれればうれしいです。

